

NPO法人自然と緑

NPO 法人自然と緑 会報 2023 年 7 月 1 日発行 第 131 号

特定非営利活動法人自然と緑
代表者 伊藤 孝美

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35
アネックス パル法円坂(大阪市教育会館)4階
TEL: 06-6809-1700 FAX: 06-6809-2702
E-mail: sizen_mi@osb.att.ne.jp
URL http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/



特定非営利活動法人自然と緑 第 25 回通常総会議事録

総会記録担当 関澤友規子理事・竹内一郎理事

- 1 日 時 2023 年 6 月 10 日(土) 14 時から 16 時 30 分まで
- 2 開催場所 大阪市中央区法円坂 1 - 1 - 35 アネックスパル法円坂 3 階 1 号室
- 3 議長等の選任

・司会者・瀧原勇理事は議長に西田博理事を全員の承認で選任し、第 25 回通常総会の開催を宣言した。



・伊藤孝美理事長の挨拶の後、来賓の全国林野労組近畿中国地方本部執行委員 司会瀧原理事 議長西田理事 伊藤理事長 来賓の田上氏 来賓の渡辺氏 長田上富二男氏と大阪交通ライフサポートセンターの渡辺伸二氏を紹介し、代表で田上氏に挨拶を頂いた。

・議長は議事録署名人に伊藤孝美理事長、松田純一会員と西田議長を選出、議事運営・資格審査委員に神崎トモ子会員を選出、総会書記(記録)に関澤友規子理事、竹内一郎理事、写真を牧野道夫理事に依頼した。

神崎トモ子委員→



・議長は神崎トモ子委員から現在の会員数は 218 名、出席会員数 31 名、委任状 113 名で合計 144 名。過半数以上の出席との報告を受け、14 時 30 分総会は無効に成立している旨を告げ、議事に入った。

4 議 事

◎第一号議案 2022 年度事業報告について上田豪副理事長が報告を行った。



【質問】(山川亮二会員)①理事会で 上田副理事長 質問の山川氏 答弁の竹内理事 答弁の堀口理事 提案の豊田会員
ズーム機能を利用しているか。その実際について。②事務局の体制について・平日 1 名の必要性はどうか、また
実際の業務はどんなか。③事務のデジタル化について。会員のメールアドレスの総数等、データ把握が出来て
いるか。

【答弁】(瀧原事務局長・小島理事・竹内理事・牧野理事・堀口理事)①ズームは一時期使っていたが今は使っていない。②平日の事務局の仕事は電話受付、印刷、各事業担当の仕事等色々ある。実際に見に来て欲しい。③会員や自然大学の生徒さんの中にはメールアドレスを持たない人もいます。自然大学リーダー内や馬ヶ瀬関係内等で多くのメール等を使用している。問題山積ではあるが、デジタル化についてはその方向で検討してゆきたい。

【提案】(豊田会員) 1 号議案と 2 号議案で一括で質疑応答・承認をまとめた方が良いでしょう。

【答弁】(西田議長) 来年度はそのやり方でまとめる。

第一号議案は拍手で承認された。

議事内容は次頁へ続く→

— 131 号目次 —

p 1 ~ 2	第 25 回通常総会が開催されました。	第 25 回通常総会書記
p 3 ~ 4	渡辺弘之の未確認事件簿(13) ポーフラ(子子)売り	自然大学学長 渡辺弘之
p 4	新刊紹介 前迫先生の本『愛しの生態系』	自然大学教授 前迫ゆり
p 5	定年退職後の「北陸での田舎暮らし」	自然大学 7 期生 奥山悦男
p 6	27 期自然大学 春日山照葉樹林生態実習感想文(抜粋)	27 期自然大学受講生
p 7	地元の巨樹・古木(11)	自然と緑理事 竹内一郎
p 7	会報川柳	自然と緑総務・広報担当 神崎 江
p 8	活動報告/編集雑記	自然と緑 会報編集部

◎**第二号議案 2022 年度活動計算書**について本田良一理事が報告を行った。

企業が寄付の見直しを始めたような昨今、収入が予定額通りにあるか？コピーカウント量が予定より高めになっているので気を付けなければ。各事業等の交通費補助が計約 100 万、これはやはり多い。近くに住む人が当番・スタッフ等になってくれたらと願う。

◎**監査報告 佐々木泰彦監事より報告。** この 1 年、色々な活動の中での 努力もあり、コロナ禍の中で 1 人の感染者も出さなかった。NPO 立ち上げ て以来、若年層の参加が増えていないので、更に魅力的な活動を続けて 欲しい。この 1 年も瑕疵なく正当に執行されたものと認める。



【質問】(山川亮二会員)交通費補助の件で、12 回ある理事会も例えば数人からでも良いのでラインで参加等のトライをしてはどうか。デジタル化の第一歩。交通費の圧縮も出来る。

【答弁】(瀧原事務局)各事業では既にラインを使っている。理事会も取り組むべきかと思うので、頑張ってやって行きたい。

第二号議案は拍手で承認された。

—ここで休憩を挟み、3 時 25 分から後半を開始する。

◎**第三号議案 2023 年度事業計画**について高田七重副理事長が提案を行った。

【質問】(山川亮二会員)自然大学の日程も各種イベントも土日祝日が多い。平日にやるのはどうか。

【答弁】(高田副理事長)自然大学講師の先生のご都合で土日になっている。他の観察会等も少しずつ平日も入れているし、必ずしも土日でなくとも良い。

(瀧原事務局)平日は参加人数が減る傾向がある。

【提案】(山川亮二会員)会員の減少傾向について、年会費 5000 円を 6000 円にしてはどうか。

【答弁】(高田副理事長)そういう方法もあるとは思う。会計が困るなら今後の検討となる。



高田副理事長 質問の橋木啓子会員 提案の橋木文雄会員 意見の川崎会員

【質問】(橋木啓子会員)現状会員数が 202 名との事。27 期の 33 人中 26 人も会員になっている。自然大学リーダー等が頑張ってくれているのに減少。会員の増減の現状について教えて欲しい。

【答弁】(瀧原事務局)一昨年会員数のグラフを作成した。自然大学定員 50 人が 30 人になったのも原因かと。自然大学から会員になってもらい、観察会等で維持するのが現状。また分析してみます。

【提案】(橋木啓子会員)自然大学卒業生が沢山会員になってきているなら、会員を辞める人を減らせば、で活動に参加しないので辞める人に「会費を払って会を支える」事をもっと訴えたら如何でしょう。

【答弁】(高田副理事長)その通りですね、そちら方面でのアピールが足りない？

(山下理事)会員継続の時に文中でアピールしている。文章だけでは足りない？高齢化やお亡くなりになることもある。観察会等でもメンバーが固定され、新しい方にアピールしたいが出来ていない現状もある。

【提案】(橋木文雄会員)会員継続の方法として、企画委員会の中で①自然大学の新しい教授と触れ合う新たな企画、②只木先生他、辞められた教授陣にも参加してもらい、古い会員さんも参加したくなるような企画をお願いしたい。

【答弁】(高田副理事長)新しい先生方との交流も良いですね、企画委員会、今年度も考えます。

【意見】(川崎会員)自然と緑の活動が良いから、と若い者に PR しても HP が動いていない。維持等が大変なら予算はかかるがプロに頼むのも良いかも。そこに古い先生方の講義とかも入れては。

(山川亮二会員)同感です。600 万規模では大変だが、今のままではマイナスイメージが先行する。

◎**第四号議案 2023 年度活動予算書**について本田良一理事から提案を行った。

【質問】(大東弘会員)予算案の中で「繰越金」とは残すものでは？予備費に入れては？次年度からは予算案からは削除してはどうか。

【答弁】(本田理事)数十年この形式なので、表自体を作り変えるのには技術的に難しい。繰越金を年度末に予備費としたり、4 月 1 日に早い人の会費納入を 1 か月前倒して入金？

【提案】(大東弘会員)理事会の中で暫定予算を組む？会計処理上 NG だが。。

【答弁】(本田理事)現金主義の会計なので 4 月 1 日にならないと郵便局から入金しない。来年度は少し考えようか。

第三号議案・第四号議案は拍手で承認されました。

議長は以上をもって特定非営利活動法人自然と緑の第 25 回通常総会に関する全ての議事が終了し、議事運営・資格審査委員の任を解きます、と述べ、16 時半閉会を宣言した。

◎閉会:司会・瀧原事務局より閉会の挨拶。

カブトガニ

1963年11月、訪れたタイ・バンコクのサンデーマーケット、当時これはワット・プラケオ（エメラルド寺院）近く、王宮前と呼ばれていたサナム・ルアンにあった。すごい人出、その中に小エビを発酵させたガピ、ナム・プラーと呼ばれる魚醤の強い匂いが漂っていた。その中に信じられないものがいくつもあった。

ヘルス・メーターが置いてあり、有料で体重を計ってもらっている。メンダー・タレーと呼ばれる日本では天然記念物のカブトガニが食用で売られている。一方、タイワタガメも大量に売られている。日本では絶滅危惧種なのに、これも食用である。タガメはメンダー・ナーと呼ばれる。タレーは海、ナーは淡水・田んぼだ。海のメンダーと田んぼのメンダーである。

カブトガニ →



堅い外骨格の半円形の前体、六角形の後体、後ろに突き出した長い剣、カブトガニは化石の三葉虫によく似ている。日本の繁殖地は瀬戸内海と玄界灘の浅い海で、天然記念物に指定されている。東南アジアのものは日本のものとは別種で、ミナミカブトガニとマルオカブトガニの2種がいるが、食べるのはミナミカブトガニだけだとされる。雌のカブトガニの甲羅を剥すと黄色い小さな卵がぎっしりと詰まっている。未熟のパパイア・サラダに入れても食べるが、カブトガニの丸焼きも人気だ。タイの海鮮レストランにはいつもおいてある。水槽に泳がせていることもある。天然記念物を食べているようでちょっと気になるが、卵はイクラよりやや小粒でネチャネチャと歯にくっついた。ともかく珍味だ。一度、味わってみたい。このカブトガニはシンガポール、ベトナム・ハーロン湾、ボルネオ・サバのクチン近郊の市場でも売っていた。東南アジアで広く食べられているようだ。

タイワタガメ

タイワタガメ →

タイの市場ならどこにでもあるのが、タガメだ。平べったいからだの前方に鋭い一対の鎌をもち、大きなカエルにしがみつき、体液を吸いつくしてしまいうギャングである。タイのものは日本のタガメより一回り大きいタイワタガメである。台湾から東南アジアに広く分布するが、沖縄・八重山諸島にも分布するとされる。カメムシの仲間だけに、カメムシの匂いがする。それもオスとメスでちがう。買う人は一匹ずつ鼻先にもていって匂いを嗅ぎ、好きな方を選んでる。一般にオスの方が好まれているが、卵を持っているときはメスが高くなる、蒸したものの翅をちぎり、中の卵を食べる。普通はナンプラー（魚醤）の中に漬け、香りを楽しむ。



瓶入りのナンプラーにタガメの入ったものも売られている。ラベルにタガメの絵が描かれている。粉々したものも売っている。どうもこれをご飯にかけるらしい。このカメムシの匂いがたまらない、食欲をそそるといふのだから食文化のちがいがわかる。これも一度、味わったらい。

設備投資のいらぬ商売

びっくりしたのが、ボーフラを洗面器に入れて売っていたことだ。金魚すくいの網に似た小さな柄杓でそのとき1パーツ（当時約20円）だった。食品売り場でなく色とりどりの熱帯魚売り場の中だったので、佃煮にして食べるものでないことはすぐにわかった。熱帯魚の餌であった。熱帯魚にとって、「く」の字からだをヒクヒク動かしながら、水の中を上下するボーフラをもらう方が楽しい食事に思われた。ところが、よくみると、ボーフラの大きさが揃っている。暑いところのこと、蚊は一年中いる。バケツに水を入れてその辺においておけば、ボーフラはすぐに湧いてくる。定期的に新しいバケツと取り換えればサイズのちがうボーフラが得られる。タイ語でボーフラをナム・ルークという。ナムは水、ルークは子供、「水の子供」ということである。熱帯魚の大きさに合わせ、好みのサイズの餌を与えたのである。設備投資のいらぬ商売であった。

ボーフラ売り →



サンデー・マーケットは1982年、タイ建国200年祭を期にチャチュチャック公園に移動した。面積もずっと大きくなって、12haだと聞いた。ここに許可を得ている店が6,000軒、それに匹敵する無許可の店があるといわれた。ここにもよく一人でも行ったし、来客も案内した。何重にも同心円状に店舗が並ぶところ、それもいつもひどい雑踏なのだから、すぐに仲間とはぐれた。はぐれた時はとにかく中心に行くように指示しておいた。迷子になって青くなっている仲間とここで会えた。

熱帯魚売り場、ペット・コーナーはより繁盛していた。ボーフラの需要も大きくなっているようで、大きな金盥の中だった。値段は一すくい5パーツ（50円）だった。気がつくと、派手な袋に入った餌（ペレット）が並んでいたが、ペレットに負けないでボーフラは残ると思った。

ボーフラという言葉に別の意味がある。煎茶道の御手前で使う陶器で、上か横に手のついたものもボーフ

ラというようだ。蚊の幼虫はボウフラ、湯沸かし道具はボーフラとしていることもある。

闘魚 (ベタ)

いろんな熱帯魚が売られているといったが、暑いところのこと水温調節のためのサーモスタットはいらない。酸素供給のためのエアープンプさえあればいい。手軽に熱帯魚が飼えるのである。大ききのちがうガラスやプラスチックの水槽の中でぷくぷくと泡が出ている。棚に大量の小さなガラス瓶が並べられ、その中に闘魚が一匹ずつ入っている。闘魚とはベタ (*Beta splendens*) のこと、体長 5 ~ 8 cm の紫がかった青色の細い魚で大きな尾びれを持っている。雄の方がより大きくきれいだ。もともとタイ原産の魚だという。日本でも売られているが、品種改良で金魚のような大きな尾ひれをもっている。金魚などは一つの水槽にたくさん入れているが、ベタはやはり 1 匹ずつ別々にしている。

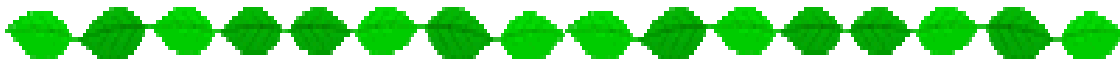


ベタ →

タイ名はプラー・ガット、プラーは魚、ガットは咬むということ、名の通り闘魚だ。瓶に一匹ずつ入っているとあったが、2 匹をいっしょにするとすぐに喧嘩を始める。どちらかが死ぬまで戦うというが、実際には勝負がついたら引き離す。

タイの人たちはギャンブル好きだ。昼間、タマリンドの木陰でよくトランプをしているが、これも賭けのこと、遊びではないことは雰囲気わかる。しかし、パチンコ店はないし、麻雀も法律で禁止されているシャモの喧嘩 (闘鶏) も盛んで、あちこちに闘鶏場がある。闘魚の他、カブトムシ、コオロギの喧嘩もある。やっているのは大人である。闘魚の愛好家がいる限り、ボーフラ売りはなくなるらない。私の予想である。

我が家のガレージの屋根の雨をポリ容器で受け、プランターの水やり用に貯めている。しかし、夏の間なら確実に数日でボーフラが湧いてくる。蚊になるまえ、鬼ボーフラになると飼っている金魚の水槽に入れる。金魚が喜んで食べている。



—新刊紹介—

社叢学会編・前迫ゆり責任編集 『愛しの生態系 研究者とまもる「陸の豊かさ」』

文一総合出版 237ページ、(2023) 定価3,300円



楽しそうな書名である。植生学会員を中心に33名の研究者がそれぞれこだわりと情熱をもって長年続けてきた研究を「世界遺産の生態」「火山の国の植物たち」「海と植物」「寒さと植物」「樹木のない自然」「シカの脅威を考える」「人のくらしとともに」の章立てで分け、研究対象地域の自然・生態系・植物の特徴、さらにはそこで起っている問題などについて述べられている。「世界遺産の生態」では屋久島、奄美大島、小笠原諸島、知床、白神山地はもちろん「火山の国」の植物たちでは富士山、桜島、三宅島・御蔵島、「海と植物」では山陰海岸・鳥取砂丘、佐渡島東日本大震災の被災海岸、「寒さと植物」では石鎚山、北アルプス、八ヶ岳、後立山、青葉山、「樹木のない自然」では都井岬、伊豆大島、尾瀬、小清水原生花園、道東、「シカの脅威を考える」では大台ヶ原、春日山、綾、「人のくらしとともに」では阿蘇、但馬・淡路島、冠島、静岡県茶草場、武蔵野の雑木林、長野県の牧ノ入茅場などが解説される。有名

観光地でなく樹木のない自然や人のくらしとともにで解説される植物・植生が面白い。解説編と用語解説があり、理解を助けてくれる。一読をお勧めする。(推薦文: 渡辺弘之)



【これなんだろう・何故だろう】

金剛山の谷筋に常緑樹のような、艶のある葉を持った落葉低木のコクサギがみられます。側枝の短い若枝につく葉は互生ですが、枝先の伸長した若枝の葉は 2 個ずつ左右交互に互生し、これを「コクサギ型葉序」と言います。右の写真は葉を光に透かして撮って、拡大したものですが、白い点があるのは何故でしょう。(答は最終ページをご覧ください)

定年退職後の「北陸での田舎暮らし」

自然大学7期 奥山悦男

社会人時代は吹田市内に住んでいましたが、定年退職後の61歳の時（12年前）に福井県越前市の実家へ、夫婦で移住し、両親との同居生活が始まりました。近くに山を持っているので、山の手入れを行い、竹の侵入で荒れた山を里山化することが移住の大きな目的でした。しかし、父が組合員になっていた農事組合の農作業を手伝うことになりました。農業経験も人生の挑戦として良いかとも思い実践しました。農事組合は30haの管理耕地に米・大麦・蕎麦を2年3毛作で作っています。高齢化・若手不在で農事組合に水田を耕作委託する農家が多く、農事組合が耕作する面積が毎年増えていきます。



でも米価は年々下がり、収入は微増。農業機械購入に依る融資返済金や修理代が増え、組合経営は火の車です。特に2020年（令和2年）はコロナ禍により外食産業が壊滅状態になり、外食向けの米需要が激減し、米価が急落し、とんでもない赤字になりました。幸い収入保険に入っていたので、収入減の9割分の保険金が出たので助かりましたが、保険に入っていなかったらとんでもない事態になるころでした。移住した頃は、一日中農作業を行い疲労困憊で夕方帰宅しても、翌朝起きれば、疲れが取れ元気に農作業に出かけました。でも歳取る毎に疲れが残るようになり、60歳代後半からは半日の農作業が限界となりました。70歳になった時に農業の第一線から身を引きました。

移住後は地域のいろんな役職を体験しました。70歳になってから、区長・当て職（自警消防隊隊長等）・公民館館長になり、てんてこ舞いでした。今年3月で区長・公民館館長を任期満了で退任しました。民生委員だけは継続していますが、以前と比べ、時間的にかなりゆとりが出てきました。念願であった、山の手入れ作業がようやく出来るようになりました。毎日のようにチェーンソーを持って山へ行き、杉を守るため侵入してくる竹を伐採したり、雪による倒木杉の処理をしています。他に集落の山中に今年4月に完成した鹿対策用電気柵600mの見回り・点検・補修をしたり、田んぼ畔の草刈り作業をしています。



趣味として、社会人時代から行っていた合唱活動は、地元の混声合唱団に入り、昨年からは団長をしています。高校大学時代にオーケストラでチェロを担当していましたが、定年後にチェロを購入し、地元の弦楽アンサンブルで活動しています。

「自然と緑」仲間が毎年来福されています。私はその都度、福井の自然・歴史・文化を案内紹介して

います。来福者には「越前おろしそば」を食べて頂いています。越前市在住中に、同居していた90歳代の両親を看取り、築98年の広い古民家に夫婦2人だけで住んでいます。やりたい事が多過ぎますが、夕方風呂に入った後「今日はこれだけの事が達成できたナ」という満足感を肴にビールを飲んで頂いています。日々の小さな満足感の積み重ねが、豊かで実りある充実した人生につながると信じながら、北陸の片田舎での生活を楽しんでいます。

新版案内 5月中旬発行 新写真でわかる磯の生き物図鑑

今原幸光 編著
有山啓之・石田惣・伊藤勝敏・大谷道夫・柏尾翔・竹之内孝一
鍋島靖信・波戸岡清峰・花岡皆子・松井彰子・山西良平・渡部哲也 共著

新写真でわかる 磯の生き物図鑑



トンボ出版から出版され、多くの観察者に愛用されてきた図鑑を全面改訂。磯で見られる生き物約700種を約1000点のカラー写真で収録。無脊椎動物の体制模式図や海藻の断面図も多数掲載。用語解説、参考文献、学名・和名索引も充実。他にも、検索表、潮汐のしくみや磯浜の外来生物に関する解説、観察の手引きなど、情報満載。

ISBN978-4-303-80056-7
C0045 A5判 288頁
定価（本体2600円＋税）

海文堂出版株式会社 FAX 03-3815-3953
〒112-0005 東京都文京区水道2-5-4 TEL03-3815-3292 <http://www.kaibundo.jp/>

《 1 班 》

○久しぶりの奈良でした。興福寺から春日山までの道すがら、大きな楠に見とれつつ樹齢を聞いてビックリしました。以前、千葉県が楠の北限と書いてあったのを見ましたが、今は群馬の山中の実家にも大きな楠があります。春日山の暗い森に入り、ナギに初めて対面。葉の生え変わりの周期が6年とは長いです。「ルートサッカー」と云う、植物の拡大方法も初めて知りました。ナンキンハゼは紅葉が綺麗で大好きな木でしたが、若草山山頂部の生育範囲の拡大を見ると脅威にも感じました。ノンビリと鹿が草を食む景色は気持ちをゆったりさせてくれますが、人と植物、動物、固有種と外来種など、共存すると云う事の課題、難しさを感じた1日でした。前迫先生はじめ講師の方々の話は分かり易かったです。有り難う御座いました。



照葉樹林の話をする前迫教授

○春日山の原始林や若草山の鹿との関わりなど勉強して、お天気にも恵まれ、楽しい一日でした。葉っぱの形にも興味を持ち、家の庭の葉っぱを取っては図鑑で勉強しました。ひとつ質問があるのですが、春日山原始林のイチイガンが少なくなってきた、ナギに侵食されているという実態でしたが、ナギではどうしてダメなのですか？（※アンダーラインは質問）

【回答】理由は簡単です。春日山原始林には暖温帯の照葉樹林（常緑広葉樹林）が成立していることが重要で、その事由によって特別天然記念物に指定されています。つまり暖温帯の自然林として学術的にも文化的にも貴重な森林です。一方、ナギは本来、奈良には生育しない国内外来種です。

照葉樹林から外来樹木に置き換わることは、森林の崩壊、生物多様性の劣化を意味し、春日山原始林の価値を大きく損ねます。また未来に本来の自然林を残すことができないという大きな問題がみえます。

《 2 班 》

○「原始林」と「原生林」の違いもわかっておらず、初めて耳にする言葉もいっぱい、またまた、頭が飽和状態！でしたが、新録と素晴らしい景観に大いに癒されて帰途に着きました。特に、森林の中で樹種を使って、高木、亜高木、低木などの説明をしてくださったのが、テキストなどで見ていたのとは、こんなにも違うのかと思いました。「シカ除けの柵があるとき」「ないとき」の植生の様子を比べるのもまさしく、そうでした。今回のように、植生の異なる山と山の比較をしたり、シカの食害による植物の姿形の変化や、土砂の流出の現状を見たりと、こんな森林での研修は、初めてだったように思います。うまく表現できませんが、「つながり」の中で見る、考えることへの大切さに気づかされました。今回も貴重な研修をありがとうございました。※若草山（写真を撮ったあたり）に植えられていたのは、シカの食べない「イワヒメワラビ」だったのでしょうか？ 【回答】多くは普通のワラビです。

《 3 班 》

○今まで何気なく歩いていた場所や、始めて入った春日山原始林を、前迫先生をはじめ、いろいろな方々のご説明を受けながら、少しずつ登って行く間に、いろいろな想いが巡りました。春日山の照葉樹林を保護して下さっている方々のご苦勞と、鹿が森林への食害を起こしているが、天然記念物でもある事。この関係をどう守って行くのか、難しいなあと、切なくなりました。鹿の採食によって減少する植物と、採食されないことによって増える植物。本来なら今まで食べなかった植物までたべるようになるくらい、鹿もお腹が空いている事も、刺草を見て切に感じました。コロナで観光客もほとんどいなくなり、お煎餅をもらえなくなった事も、鹿の頭数が減ってきている原因でしょうか？前迫先生の、実験区のご説明に、少し希望が持てました。いろんな面から理解しあって協力出来れば、何十年、何百年先も、あの若草山から見えた美しい山の景色を見る事ができるのでは？今、放ってはおけない問題だと強く感じました。貴重な1日をありがとうございました。



地元の巨樹・古木（11）

自然と緑理事 竹内一郎

岬町淡輪・船守神社の大きす（大阪府泉南郡岬町淡輪 4442）

幹周り = 10 m、樹高 = 25 m、樹齢 = 約 800 年、大阪府指定天然記念物（1973 年 3 月 30 日指定）

今NHKで放送中の連続テレビ小説「らんまん」の主人公榎野万太郎のモデルとなった牧野富太郎の「学生版 牧野日本植物図鑑」（自然と緑自然大学皆勤賞の記念品）の「くすのき」を要約すると、「くすのき（くすのき科）暖地に自生する 20 m以上になる常緑木で、栽植もされる。葉は長い柄があり表面には光沢がある。晩春、初めは白色で後に黄色を帯びる小花を開く。果実は球形で黒く熟す。木全体に芳香。材で器具をつくりまた樟脳をとる。」です。

船守神社の大きすは拝殿前にあり、4本の幹が1本になったと言われる珍しい木です。（根元が柵で覆われ状態は不明）800年を経て空に向かって枝葉を大きく伸ばし、周囲の環境から大切に育てられていることが感じられます。船守神社は、南海本線淡輪駅（自然と緑自然大学の野外実習みさき町長崎海岸の最寄り駅みさき公園駅の大阪側へ一駅）より西へ約600メートルにあります。911年に醍醐天皇の詔に創建されたと伝えられ、現在の本殿は1609年に豊臣秀頼の命により再建されました。三間社流造の桃山様式を継承しており、1950年（昭和25年）に国の重要文化財に認定されています。御祭神は「紀朝臣船守公（きのあそみふなもりこう）」「五十瓊敷入彦命（いにしきいりひこのみこと）」「紀小弓宿禰公（きのおゆみのすくねこう）」の三神です。紀朝臣船守公は戦で功をなし、紀伊守・土佐守を経て大納言となり、没後も正二位右大臣を追贈されました。土佐日記などで有名な歌人紀貫之は紀船守公の子孫です。五十瓊敷入彦命は第11代垂仁天皇の第2皇子で、若い頃より諸国にたくさんの池や溝を造りました。淡輪駅の南には命の陵墓として宮内庁管理の「宇度墓古墳（全長200mの前方後円墳）」があります。紀小弓宿禰公は、雄略天皇の勅により新羅征討大將軍に任じられ善戦するが病死します。天皇が公を「龍の如く驤り、虎の如く視て・・・」と武勇を称えたことより「青龍権現」と崇められ、この地に埋葬されています。みさき公園駅と淡輪駅の間にある「西陵古墳（全長210mの前方後円墳）」です。他にも多くの古墳があります。これらは泉州南部に勢力を伸ばした紀の川沿岸を本拠とする紀氏一族のものとみられています。その後、平安後期には淡輪氏に

変わり武威を振るっていました。しかし、淡輪氏も淡輪一族の娘が関白秀次の側室だったため、秀次自決後、領地没収されました。ここ淡輪は、古くは大阪湾南部の紀淡海峡に近く数々の戦があり、現代は新しく道路・施設が多く出来ているが、温暖な自然の多い場所です。みさき公園駅前の案内所には、種々の地元名所めぐりのパンフレットがあり、係の人が親切に説明してくれます。出かけてみては如何でしょうか。

会報川柳

ひまわりが切り花となり店に咲く

神崎江

空に向かいまっすぐに大きく成長するひまわり。最近品改良され小ぶりのものがお花屋さん店頭並び、その愛でも多様となりました。

傘をさす雨が降る日も晴れた日も

神崎江

日傘は直射日光を避け体感温度を下げる効果があり、夏の暑さ対策、熱中症対策として有効です。最近日傘をさしている男性も見かけるようになりました。今年も猛暑、皆様ご自愛ください。

※（神崎江（こう）は自然と緑事務局総務担当 同広報担当 神崎トモ子さんの雅号です。）



大きす根元周辺 ↑
← 船守神社の大きす

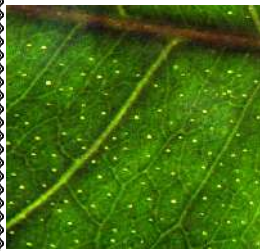
【御礼】いつもありがとうございます。（順不同、敬称略）

<切手、ハガキ、現金などのご寄付、他>

05 / 08 M. S. ハガキ、切手



【3ページの答】



白い点は香りを有する油点で、コクサギはミカン科の植物だからなのです。ミカン科の仲間の多くは香り成分が入っている『油点』を持っています。ミカンの皮にも多くの油点があり、皮をむいた時に油点が破れて非常によい香りが漂います。サンショウもミカン科の植物ですが、葉の油点は鋸歯の付け根にあります。「木の芽」を香りづけするためには、葉を手のひらで叩いて油点を破裂させ香りを出させるのです

←左:ミカンの葉の油点、右:サンショウの葉の油点

自然と緑の活動報告 2023年4月～2023年6月

- ◇ 04/18 (火) 経法大の山整備活動 05 人
- ◇ 04/22 (土) 第 28 期自然大学「長崎海岸実習」 45 人
- ◇ 04/23 (日) 馬ヶ瀬山定例活動 21 人+ 11 人
- ◇ 04/28 (金) 企画グループ会議 06 人
- ◇ 05/09 (火) ドコモまほろばの森、奈良森林管理署の選木 04 人
- ◇ 05/10 (水) 馬ヶ瀬山 倉庫の整理・整頓 03 人
- ◇ 05/11 (木) 5 月期理事会 14 人
- ◇ 05/14 (日) 第 28 期自然大学「春日山原始林実習」 43 人
- ◇ 05/16 (火) 経法大の山整備活動 07 人
- ◇ 05/18 (木) 水都おおさか森林の市 実行委員会 15 人
- ◇ 05/20 (土) 武庫川探訪自然観察会「第 4 回」 20 人
- ◇ 05/20 (土) 協力事業「ドコモ大和まほろばの森」 05 人+26 人
- ◇ 05/21 (日) ステップアップ講座「錦織公園」 20 人
- ◇ 05/21 (日) 馬ヶ瀬山植物調査 10 人
- ◇ 05/27 (土) 協力事業「ドコモ近江奥島山」 09 人+38 人
- ◇ 05/28 (日) 馬ヶ瀬山定例活動 19 人
- ◇ 06/03 (土) 地学むかし散歩{第 4 回} 17 人
- ◇ 06/06 (火) 自然観察会「交野山」 04 人
- ◇ 06/08 (木) 理事会 15 人
- ◇ 06/10 (土) 第 25 回通常総会 31 人
- ◇ 06/17-18 (土日) ステップアップ講座「馬ヶ瀬山」 24 人

NPO法人
自然と緑
ダウンロード方法

上記QRコードに
アクセスして下さい

烏柄杓



★編集雑記
☆暦を見ると七月二日のところに半夏生という節気があります。
☆農家にとっては大事な節目の日で、この日までに「畑仕事を終える」「水稲の田植を終える」目安となります。
☆この日は天から毒気が降ると言われ、井戸に蓋をして毒気を防いだり、この日に採った野菜は食べてはいけないとされたりしました。
☆ややこしいのは、半夏生という植物に二つあることです。
☆一つは、半夏生(カラスビシャク・烏柄杓、サトイモ科)という薬草で、
☆二つはちょうどこの時期に半分白い葉をつけるハンゲショウ(カタシログサ・半化粧、ドクダミ科)です。
☆どちらが節気の半夏生にあたるかは読者諸氏にゆだねます。
☆日本各地に残る風習があり、福井県大野市を中心とした地域では半夏生に焼き鯖(半夏生さば)を食べるようです。
☆奈良県の香芝市周辺(大阪府南河内地方でも)では「はげっしょ」と言い、農家では小麦を混ぜた餅を作り黄粉をつけて食べるようです。田植を終えた農民が農作業を無事に終えたことを田の神様に感謝し、お供え物をして共に食したことが由来とされています。(ワンワン)

